

清流ニュース

発行所
八王子市子安町1-22-25
清流寺
清流ニュース編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
<http://seiryuji.jp.org/>

令和二年度総祈願
本年度教化誓願達成
激励助行隨喜参詣歡喜御講獎励之御願
一人ひとり御会式参詣將引御奉公推進

開導聖人御指南
『信心さかんなる時は
魔を伏す、よわきときは
魔入りて信をやぶる』
私どもは「魔軍」と戦争するつもりで、この怠りの気持
ちを奮い起こし、正法弘通の先
頭を切られたお祖師さま日蓮
としての今生を貫き通そうで
ありますんか!』

十一月朝参詣祈願週間
二日～六日
第六・第七・第八・第九ブロック
十一月の祈願参詣は、第六ブ
ロック(小金井)第七ブロック
(大和・東村山)第八ブロック
(昭島)第九ブロック(西多
摩)の各教区の教化誓願の言
上をさせていただきます。

十一月の御總講日
一日十時 御修行日
七日十時 バースデー總講

日序上人報恩祈念
高祖御命日
開導御命日
門祖御命日
高祖御遠夜
開導御遠夜
門祖御遠夜
歎尊御命日
三十日十時
於羽村別院

廿五日十時	於清流寺
廿四日十時	高祖御遠夜
廿四日十時	開導御遠夜
廿四日十時	門祖御遠夜
廿四日十時	歎尊御命日

高祖日蓮大士ご降誕八〇〇
年慶讃ご奉公第三年度も、ついに最終月になりました。
本年は、コロナ禍の影響をまともに受け、ご弘通が、まゝなら、さての工夫をこらし、感染拡大を防御してまいりました。

過日、本山宥清寺の高祖会に於て、御講尊・小山日誠上人は、御法門で、御教歌「怠りの魔軍を責て弘むべし」を唱じてはならぬと、祖師の御味方と御教歌を引かれ、

『新型コロナウイルスといふものは、わたしども一人一人の信心を試すために現れた、「魔」ではないでしょうか?「魔」というものは、信者が善事をなし、菩提に励もうとするのを邪魔しようとする恐ろしいものです。

私どもが、今これに負けてしまつたら、長い間積ませていただきた菩薩行の功德も何もかも一度に崩れ失せてします。私は、この「魔」に負けてしまつてはなりません。私は、この「魔」に負けてしまつてはなりません。今まで、必死にご奉公させていただいて来た功德が無駄になってしまいます。

去る十月二十日午後九時五十分、法寿七十歳を以てご遷化されました。
ご葬儀は
十月廿二日 午後六時仮通夜
廿三日 午後六時本通夜
廿四日 午前十一時
本葬儀

訃報
当山第二世住職
長谷川日堯上人ご遷化
十月二十日 法寿七十歳

信廣会幹事長・横谷日熾師葬儀委員長の下、清流寺葬の礼を以て、有縁の御高職、御導師方のご出座をいただき無事に執行させていただきました。詳細は次号に掲載させていただきます。

同歸亭要語録



すべて御弘通の為

法華經の故に罵詈毀謗せられて刀杖を加へられ、流罪せられたるを以て、大聖の臂を焼き、體をくだき、頭をはねられたるになぞらへんと思ふ。是れ一の悦びなり。

(四恩抄423)

お祖師様が法華經の弘通を北条執権の計らいとして配流の身となられたのであります。昔から仏の正法を弘むる為に種々の困苦を冒した人、或いは迫害に遭つた人も少なくないけれども、これらの人々は自分の身を苦しめるのが即ち仏恩に報ずる所以であると思つて、却つて之を喜ばれたのであります。其らの例を思ひあわせて、お祖師様はご自分もその例に加わった事をたいへん喜ばれたのです。その例の一つ二つを述べますが先

お祖師様が法華經の弘通をはじめられたのが卅二歳の御時。四十歳のときに伊豆の流罪という法難に遭われたのであるが、この間、多くの人に笑はれていたのも、師子尊者の安らかな死というのも、多くの人々

づ薬王菩薩の話があります。菩薩は日月灯明仏の教えをうけて菩薩行を成就したので、その仏の恩に報いるようにさせて頂かなければならぬといふわけで、仏の塔の前で自らの臂を焼いてその光明を捧げて供養したということです。

又、釈尊ご入滅千二百年頃、シテイルガ、果シテ生死ヲ離レタ身デアルナラバ、我ニ汝ノ首ヲ施スコトヲ惜シマヌカ。』

と問い合わせると、尊者は即座に「何ゾ惜シマン」と、答えた。そこで王は直ちに其の首を刎ねたが尊者は從容として死に就いたのです。この如く、薬王菩薩が臂を焼いたのも、師子尊者の安ら

がり決して惜しくないといふ御信心を確立せねばなりません。